

# 酒米栽培 高校生奮闘

酒米の栽培に取り組む県立篠山東雲高校(丹波篠山市)の地域農業科2年生の生徒たちが、専門家に栽培管理などの指導を受けた。生育は順調で、今月下旬には出穂するとみられる。

## 篠山東雲 専門家から指導



さん(右)から幼穂の調べ方を教えてもらう生徒たち(丹波篠山市で)

地元の蔵元と連携したプロジェクトで、包装紙も生徒たちがデザインして商品化した清酒を販売している。今年度は学校の実習田約130㌥で酒米を栽培。秋の稲刈りの後、JAを通じて出荷する。約65㌥では「Hyogo Sake 85」を栽培。11日には県立農林水産技術総合センター農業技術セン

ター酒米試験地の

・主任研究員が訪れ、「85」について温暖化にも対応した優れた品種であることなどを説明した。

実習田では、高さ70㌥ほどになった「85」の生育状況を調査。茎を抜いて「幼穂」の長さを調べる方法を松川さんが示し、生徒たちも実践した。

幼穂は約3㌥に育っており、さん(16)は「小さいのにしっかり穂の形をしている。おいしいお酒になってほしい」と話した。

2023年7月13日  
読売新聞